

旅をつづけよう
未来は待っていてくれる

80年代
——
変わりはじめた中国
ポップミュージックに
彩られた若くたちの青春

プラットホーム

賈樟柯 ジャ・ジャンクー 監督作品

プラットフォーム
站台

www.bitters.co.jp/platform



昂揚と沈黙

流れ続ける彼らの青春

川本三郎 ● 評論家

地方巡業を続ける若い彼らが、荒れ野を走る貨物列車を見る場面が素晴らしい。はじめて列車を見た昂揚と、その列車が走り去ったあとに不意に訪れる静寂。この映画は、まさに一九八〇年代の十年間という激動の中国現代史を生きた若者たちの昂揚と静寂を繰り返してとらえている。それは、そのままの一九八九年の天安門事件の熱気と、それが国家権力によってまたたく間に弾圧されたあとに訪れた沈黙に対応している。若い彼らは、その両方の時間を全身で受けとめて生きている。といつてこの映画は、現代史を大上段から描いているわけではない。映像のなかに流れてゆくのは、地方の小都市に住む若者たちの日常の小さな時間である。

『巡回文化劇団』の舞台、トラックによる旅、男女の小さな恋と別れ。描かれるのはあくまでも、旅する若者たちの日常風景である。

しかし、ちょうどディチエーホフの『静劇』のように、見えないところで大きな出来事が進行している。観客は時折、そのことをラジオのニュースや音楽によって知らされる。現代中国では、国家の事件がたちまち小さな個人にまで影響を及ぼす。

その重苦しさを振り払うように、彼らは、旅を続ける。テオ・アングロ・ブросの『旅芸人の記録』やフェリーニの『道』を思い浮かべることは容易だが、そういう名作との比較は、一九七〇年生まれの若い監督に対してむしろ失礼だろう。彼は、八〇年代の中国を生きてきた若者たちという、かけがえのない固有の存在を描きたいのだから。昂揚と沈黙、希望と失望の織り成す青春を見つめたいのだから。

この映画は感動を盛り上げるような作り方はしていない。カメラはいつも一歩引いて若者たちを広いフレームに入れる。決してうたわない。昂揚や熱狂のあとには、必ず、冷え冷えとした静寂がやってくることを知ってしまった監督は「感動」をいつも醒めてとらえている。

語り口は説明的ではない。『一瞬の夢』のときと同じように主演の王宏伟は、ぼさぼさの頭にメガネという冴えない風貌で多くを語ることなく、いつもぶつかり合うにタバコを吸い続けている。観客は彼の気持を想像していく他ない。彼のなかにあるのは、希望なのか、断念なのか。

風景が圧倒的に素晴らしい。一歩引いたカメラがとらえる人間は、いつも風景のなかにいる。監督の故郷だという汾陽という小都市のたたずまい——路地、城壁、映画館、いつも掘り返されている道。あるいは旅の先々であられる風景——荒野、鉄橋、鉱山、電燈がはじめてとる小さな村。

その風景には遠い過去から、革命や戦争を越えて現代につながるさまざまな中国史の時間が刻印されている。行きどころなく、流れ続ける若い彼らを、この確かな風景が、優しく包みこんでいる。



まさに第1級の映画だ。……ガーディアン紙

『プラットフォーム』は賈樟柯の測りしれない才能を見せつける。……レザンロキユブティーブル誌

メランコリックでありながら、厳格なスタイルは安易な感傷を排除し、完璧なまでのロング・ショットは深みのあるディテールに満ちている。……テレマ誌

プラットフォーム

賈樟柯 ジャ・ジャンクー 監督作品

2000年ベネチア国際映画祭 最優秀アジア映画賞 2000年ナント三大陸映画祭 グランプリ・監督賞
2001年ブエノスアイレス国際映画祭 グランプリ

協力:ベネトン ジャパン www.benetton.co.jp 提供:バンダイビジュアル、オフィス北野 配給:ビターズ・エンド www.bitters.co.jp/

またひとつ青春映画の傑作が誕生した!

中国の小さな町・汾陽。文化劇団のメンバーである明亮と幼なじみ四人は、劇団の練習、地方巡業の旅と、いつも一緒の時間を過ごしていた。一九八〇年代半ば、自由化の波がこの小さな町にも押し寄せてくる。政府の方針の変化で劇団への補助金が打ち切れられ、劇団そのもののあり方も変わってしまう。ロックバンドとなって旅を続ける者、町に残り職に就く者、それぞれが自分の生き方を探し始める。

監督は『一瞬の夢』で鮮烈なデビューを飾った賈樟柯。未来に対し希望を抱きながらも、一方で、不安をかかえて生きている四人の若者たちの十年間の歩み、スケール感を兼ね備えた圧倒的な演出力で切り取る手腕は、二十一世紀の映画界を担う、まぎれもない才能であることを実証している。



激変する八〇年代——ポップミュージックに彩られる時代の変遷。人民服からワンピースやラッパズボンへ。革命歌からテレサ・テンの歌や『ジギスカン』等のディスコソングへ。『流行』が生まれた時代、若者たちは、八〇年代ファッションに身を包み、ラジオから流れる台湾や香港のヒット曲を口ずさむ。劇団の出し物も、毛沢東主席を讃える芝居から、フラメンコ、そして、ブレイクダンスやロックミュージックへと変化してゆく。

『歴史』ではなく、『気配』で描きだかった」と語る監督は、若者たちを魅了するポップミュージックやファッションの変遷を通して、激変する『時代』を切り取ってゆく。

2001年度キネマ旬報外国映画ベストテン第7位 鮮烈な映像でつづられる現代中国史。“必見”とはまさにこの映画!!

4月、待望のロードショー!!

特別前売鑑賞券 ¥1,400 絶賛発売中! (当日一般 ¥1,700 の処)

●劇場窓口、阪急・阪神・HEP FIVEの各プレイガイド、チケットぴあにてお求め下さい。

※劇場窓口でお求めの方に、オリジナルポストカードをプレゼント!! (限定・50名様)

●上映日程やタイムテーブル等につきましては、劇場にお問い合わせ下さい。

梅田ロフトB1 06(6359)1080

テアトル 梅田

<http://www.cinemabox.com/>

